

## 「地域の健康」をテーマに地域調査を実施しました

1年生前期開設科目「地域の暮らし」で地域調査およびプレゼンテーションを行いました。

テーマは「地域の健康」とし、三郷市の地域包括ケアシステムを基盤とした自助・公助がどのような役割や働きをしているのかを地域調査(地域を歩き、見て、住民に聞く)することにしました。

事前に、三郷市全域を6地区に分けた後、1グループ4~5名を19グループ作り、それぞれに振り分けました。学生は、「地域」というハード面では、交通の利便性や病院・薬局、公園、スーパー等の数、「日々の暮らし」というソフト面では「栄養」や「生きがい」等を事前調査しました。またそれらを基に、全年代を対象としたインタビューガイドを作成するなど念入りに準備をしていました。

6月27日(火)の地域調査当日は、範囲が三郷市全域に及ぶため、校内にいる学生と学校に戻ってくるのが難しい地区の学生をコミュニティセンターなどからオンライン(Microsoft Teams)で繋ぎ、経過報告と状況確認をしながら変更・修正点などのやり取りをしました。当日は、かなりの暑さのため人出が少なく、対象となる人も見つからず内容の変更を余儀なくされ、またインタビューをスムーズに受け入れてもらえず思うように進まない等、苦勞しながらも実施している様子が伺えました。しかしながら、対象や地域の特徴を実態として捉えることができ、事前調査との違いを実感したことにより、現場で調査(インタビュー)することの意義を感じたようでした。

そして、地域調査での結果をまとめたプレゼンテーションを7月13日(水)に行いました。三郷市において高齢化が進むにつれ課題になっていることを他の市町村と比較し課題解決に向けた対策を独自に考えたグループや、公園が多いことから、あらゆる世代と交流し活用できるよう健康増進の「大人用遊具」を設置する提案をしたグループがありました。その他にも、様々な「健康」に対する生の声を聴いたことで、三郷市が「健康的で住みやすい地域」にするためにどうしたらよいかを考え、発表していました。

地域で健康な暮らしをするためには町づくりや地域との関係づくりが大切だということを、地域調査することで実感し、大きな学びに繋がったようです。また、学外といういつもとは違う環境下でグループ行動をしたことにより、グループ活動の意義や成果を実感できたようです。今後の地域・在宅における看護師の役割を考えるうえでの糧となっていければと思います。

最後になりましたが、ご協力いただきました三郷市の皆様や関係各位に感謝申し上げます。



## サイバーセキュリティ講座を開催しました

本校では、毎年、夏季休暇中に注意すべきことについて安全教育を実施しています。今回は年々悪質化・巧妙化するサイバー犯罪に巻き込まれないために、8月2～4日に全校生を対象に各学年1時間ずつ、埼玉県警察サイバー対策課から講師をお招きして、サイバーセキュリティ講座を開催しました。

主な内容は、SNSによる出会いの危険性、写真投稿による個人情報の流出の危険性、フィッシングやコンピュータウィルスの危険性、その対処法などについてでした。また、講師がその場で「闇バイト」や偽サイトにアクセスするなど実演もあり、学生は最後まで興味深く聴いていました。

感想として「事例を挙げてお話しいただくと自分にも起きえることなのだと実感を持ってきくことができてよかった」「ネットショッピング詐欺に合った場合はすぐにクレジットカードや暗証番号を変更した方がよいことや偽サイトの見分け方など具体的な対処方法が聞けて勉強になった」などがあり、他人事ではなく自分の事として考えられたようでした。

現代において使わない日などないインターネットですが、その裏には多くの危険が潜んでいることを知りながら上手に付き合っていくことが大切であると改めて気づかされるよい機会となりました。

最後になりましたが、ご協力いただきました講師のみなさまに感謝申し上げます。



## 学生表彰を行いました

8月3日(木)、人命救助に貢献したとして学生1名を表彰しました。校長からお祝いの言葉とともに賞状と記念品が贈呈されました。

今年3月に友人の車で外出した際、バイクと車の接触事故を目撃しました。バイク側に負傷者がおり、その方の負傷状況を確認後、出血部位の圧迫を行い救急車到着まで人命救助にあたりました。そして後日、負傷者よりご丁寧にも学校にお礼の電話をいただきました。

普段、なかなかこのような場面に遭遇することはありません。だからこそ、とっさにどのような行動がとれるのか、日ごろからの心構えが問われる場面であったと思います。今回の行動は看護学生として実に立派な行為であり、他の学生への模範となるため表彰することとなりました。

表彰の際、恥ずかしそうにしていたのですが、友人たちからの称賛の拍手を受け、改めて自分の行為の重みを感じたのではないのでしょうか。

これからも、プライベートな時間であったとしても看護学生であるという自覚を持ち、他者のために動ける学生を育てていきたいと思えます。

